田上天文臺通信 (2)

昨年末に大ドームの建築工事が全部終る筈であつたところ，時局のため，資材の入手が困難を極め，又，勞力の不足もあり，尙，日蝕觀測遠征等のために意外の支障を來し，それに加へて，寒期と，晝間短縮のため，豫期の如く萬事が進捗せず，實は，今に至るも，尙ほ工事を完了しないのである．尤も，しかし，建築物は三階建てになつてゐて，最上層部のドーム回轉屋根や，床，壁面等は九月に出來上り，45センチの望遠鏡も首尾良く据え付けが終つたので，十月末日までにウント督勵して，觀測に差し支へ無い程度に漕ぎ付けた．そして十一月2日の早曉の火星の掩蔽は何等の故障無く觀測を遂行することが出來た．勿論，この掩蔽は，小ドーム內のエリソン望遠鏡でもSが觀測した．其の夜，天氣は夜半から急に晴れて，些の心配もなく，プログラムは進められた．16ミリのフィルムにも此の現象は撮影した．

しかし，大ドーム內部は，十一月や十二月になつてからも，屋根の防水裝置の强化，壁面や床面の仕上げ，ピラーのセメント塗り上げ，階段の完成，窓の裝置等のために時日が費され，尙，ドームの回轉裝置も改良したし，ラダーにも新工夫をしたし，スリットの止りなどにも，幾度も研究し，考へ直した．其の他，電線工事の考案，日照計の窓外取りつけ，標準時計臺の位置と無線時報の聽取方法，壁面に寫眞や星圖の陳列，部分品の戸棚，觀測用机，椅子など，いろ々々の點に於いて，考へ々々工夫を進めた．今年一月下旬になつて，電線工事と，時計仕かけの掩ひを除く他のものは全部完了した．

直徑50センチの鏡筒には，部分品を澤山取りつけたので，甚だ賑やかなものとなつた．一寸見た所，カメラが4ケ，ファインダが4ケ，其の他に接眼部が2ケ所，太陽の投影裝置が一つといふ風になつてゐるが，實は此の45センチのカルバー鏡は，自分の計畫では，眼視的には使用せず，專ら天體寫眞の撮影に使用するつもりで，現に今，木邊氏にカセグリン鏡面の製作を御願ひしてゐるのだから，其れが若し首尾よく取りつけられたならば，眼視觀測は，徑10センチの屈折機と，11センチのアルミ反射機とで行ひたいと思つてゐる．

ピラーの北側の，重垂の降下する立て孔を，わざと非常に大きく設計して，其れが出來上つた．此の孔の一部は，其のまゝ直立望遠鏡として，太陽寫眞の設備を作りたい計畫で，今，想を練つてゐる．この立て孔の長さ7米半であるから，反射鏡を使へば徑75ミリ，レンズを使へば150ミリの太陽像が獲られる筈である．

二階は全部を書庫と雜品の倉庫とした．又，一階は一部を倉庫とし，殘りを工場とするつもりで，今，工事中である．晴雨計も此の一階のピラ1に取りつけた．北面に窓を二つ作つたので，此の一階は明るい良い室となつた．

地下室は1米半に2米半の大きさで，せまいものだが，一寸防空濠みたいな感じである．しかし，此の室は，時計室としたり，又，直立望遠鏡の鏡面を置いたりして，利用したいと思つてゐる．深さは地面から2米半もあるので，溫度も割合ひに一定してゐる．しかし，今は未だセメントも乾かないし，防水も不充分なので，今夏までかゝつて，良い構造にしたいと思ふ．

この二月中には，一階の東隣に寫眞の暗室を作るつもりである．大きさは1坪だが，水道の便もあるし，電氣の便もあるし，又，本屋への出入も都合が良いので，この暗室は，天文用のみならず，通信用にも家族たちが使用することと思ふ．

小ドームは，一昨年末に出來上つて以來，ズツと愛用されてゐる．大ドームに比べると，萬事に輕便で，又，展望も廣く開けてゐるので，つい誰でも此のドームに入り易く，從つて，エリソン機は多くの人々に愛せられてゐる．昨年の夏頃まで，此の小ドームは，雨が漏れて，困つたが，防水紙の張つたので，其れから，雨は全く入らなくなつた．風の強い時，この小ドームの屋根が吹き飛ばされやしないかと，時々，心配するのだが，幸ひにして，過去一ケ年餘り20米內外の風には良く堪えて，何の故障も起らなかつた．——風のことで思ひ出したが，昨一月27日午後，急に20米ばかりの突風が暫へ吹きつのつた時，大ドームの屋根が40°ばかり回轉して了つて，たまゝゝ工事中の大工たちが之れを發見し，大騷ぎをしたらしい．ちようど，其の日，自分は京都に出かけてゐて，不在だつたが，今日歸つて來て見て，報告を聞いた．今後注意すべきことであるが，之れは，一面に於いて，屋根の杉材が漸次輕くなつた證據だとも言へる．

參觀人がボツゝゝ來られるが，上の如き事情だから今暫く待つて貰ひたい．工事の序でに，文庫や住宅の修理や模樣變へなどもやつてゐるから，全部が一通り完成するのは，今春四五月の頃となる見込みである．

一月3日の朝，たまゝゝ大雪（此の地方としては）が降つたので，其の朝，撮つた大ドームの寫眞を口繪に揭げる．之れが，この天文臺の寫眞として世に出る最初のものである．

(1942—1—28)

編輯後記

本誌前卷（第21，昭和16年）の總索引は第5號につける豫定です．